

# 大分県の復旧・復興に向けて

平成28年5月

大 分 県

平成28年熊本地震に伴う大分県の被災状況について

平成28年5月27日

16時30分

1 人的被害 27人

(1) 重傷 4人

○避難中に転倒、負傷

(大分市/87歳女性、由布市/41歳男性、日田市/80歳女性)

○落石による

(日田市/35歳女性)

(2) 軽傷 23人

大分市	別府市	中津市	日田市	佐伯市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後高田市
2	7	0	5	0	0	0	1	0
杵築市	宇佐市	豊後大野市	由布市	国東市	姫島村	日出町	九重町	玖珠町
0	2	0	6	0	0	0	0	0

2 避難者数 0人(最大総数16,238人) ※5/16正午で県内避難所は全て閉鎖

大分市	別府市	中津市	日田市	佐伯市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後高田市
0	0	0	0	0	0	0	0	0
杵築市	宇佐市	豊後大野市	由布市	国東市	姫島村	日出町	九重町	玖珠町
0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 建物被害 2,636棟(現在判明分のみ)

(1) 住家 2,396棟

- ① 全壊 2棟 別府市 1 九重町 1
- ② 半壊 61棟 別府市 15、中津市 1、由布市 40、九重町 4、玖珠町 1
- ③ 一部破損 2,333棟 大分市 35、別府市 1,007、中津市 15、佐伯市 1、津久見市 10、竹田市 92、豊後大野市 12、由布市 1,056、日出町 6、九重町 98、玖珠町 1

(2) 非住家 240棟

- ① 全壊 13棟 中津市 1、由布市 12
- ② 半壊 2棟 由布市 2
- ③ 一部破損 225棟 大分市 9、別府市 70、中津市 1、津久見市 1、竹田市 5、杵築市 1、宇佐市 1、豊後大野市 1、由布市 112、日出町 1、九重町 23

4 ライフライン被害

(1) 水道断水 なし

・復旧済み 6市1町(別府市、中津市、日田市、竹田市、豊後大野市、由布市、九重町)

・給水制限等継続 1市(宇佐市)

(2) 停電 6市2町

・全市町復旧済み(別府市、中津市、日田市、竹田市、宇佐市、由布市、九重町、玖珠町)

5 社会インフラの被害

(1) 道路被害 207件【39件】(【】の数は全面通行止規制中の件数)

- ・高速道路 2件【0件】 ※大分自動車道(湯布院IC-日出JCT)
- ・国道 16件【3件】 ※地震後の雨等に起因するものを含む
- ・県道 36件【1件】
- ・市町村道 144件【30件】
- ・林道 9件【5件】

(2) 河川・港湾被害 13件

- ・河川 5件
- ・港湾 8件

(3) 農林水産業施設被害 627件

- ・農地・農業用施設 620件
- ・治山施設等 5件
- ・漁港施設 2件

6 教育・文化施設被害

(1) 学校施設

一部損壊 89棟 幼稚園 5、小学校 30、中学校 17、高等学校 23、特別支援学校 11、学校給食施設 3

(2) 社会教育施設

一部損壊 61棟 県管理 6、市町村管理 55

(3) 文化財

一部損壊 37件 国指定文化財 12、国登録文化財 8、県指定文化財 17

# 道路被災状況(主な被災箇所)

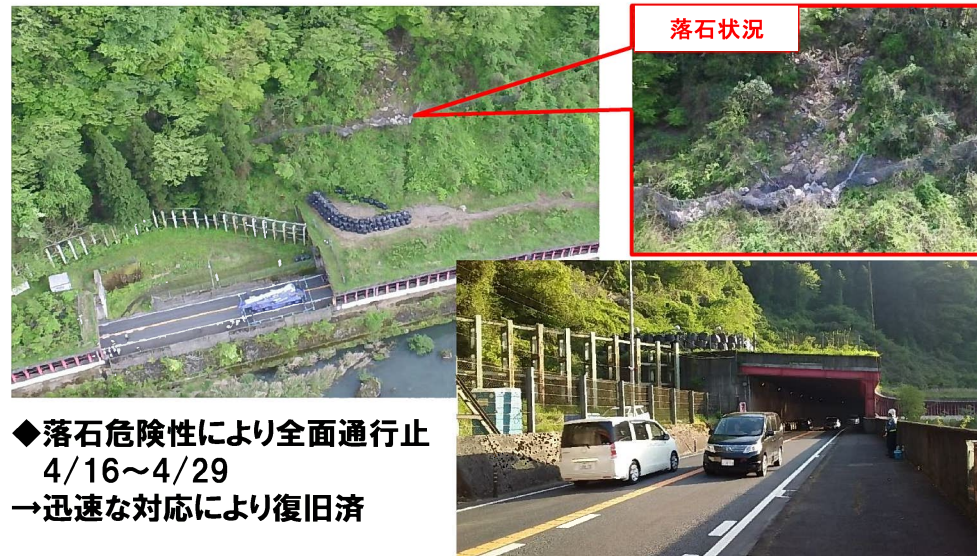
全面通行止め箇所		
道路種別	箇所数(最大)	箇所数(5/27)
高速道路	2	0
直轄国道	1	0
県管理道	35	4
市町村管理道	97	17

※直接的な地震起因のみ記載  
特殊通行規制を行っている箇所は除く

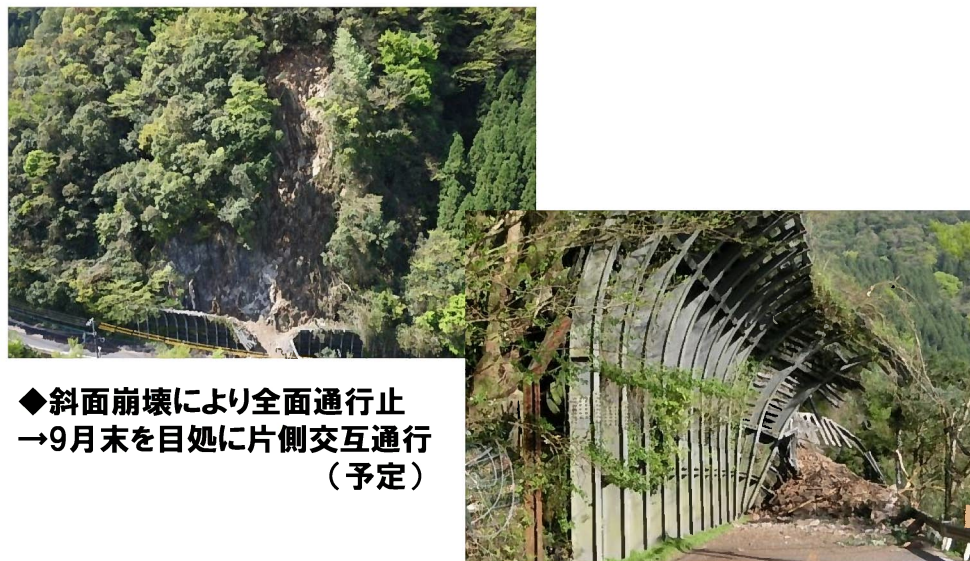
## <重点事項>

- ・大分自動車道(湯布院IC~日出JCT)の早期全面復旧
- ・道路防災対策の更なる促進

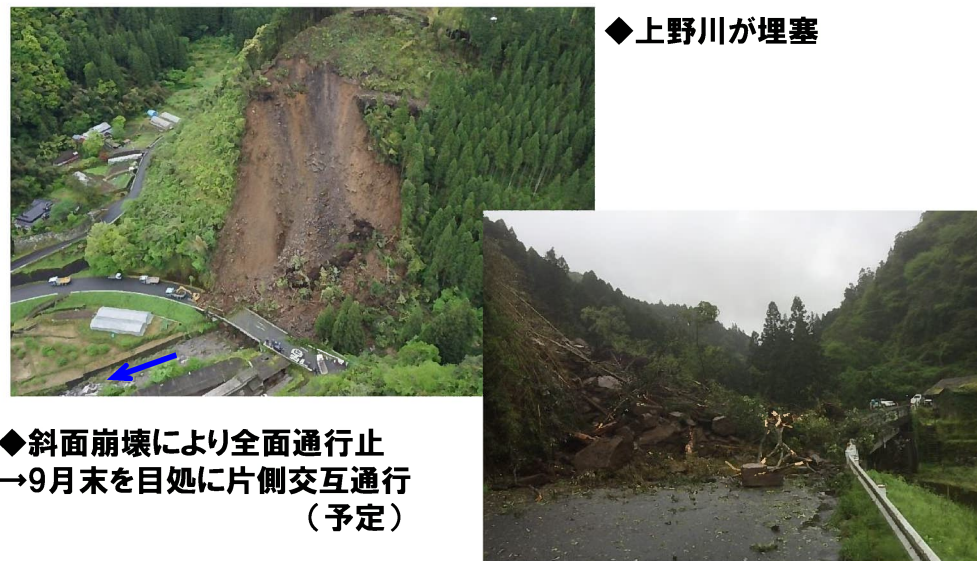
## 直轄国道210号(日田市天瀬町赤岩)



## 国道212号(日田市大山町西大山)



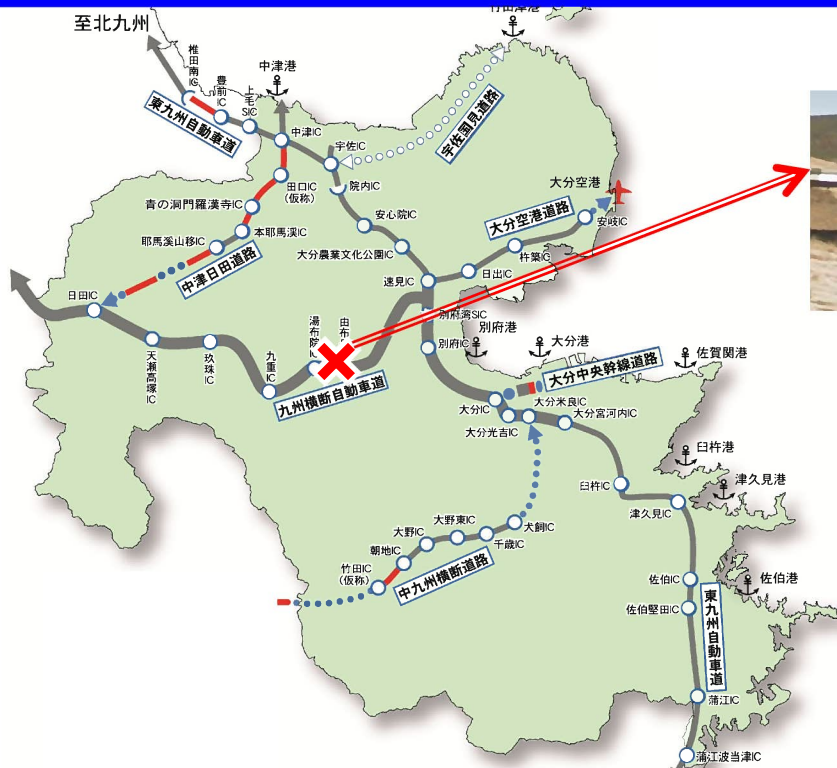
## 県道西大山大野日田線(日田市大山町西大山)





# 大分自動車道(湯布院IC～日出JCT) 並柳橋の損傷

4/16～5/9までの24日間全面通行止



支  
承  
等  
の  
損  
傷



現  
状



崩  
土  
撤  
去  
状  
況



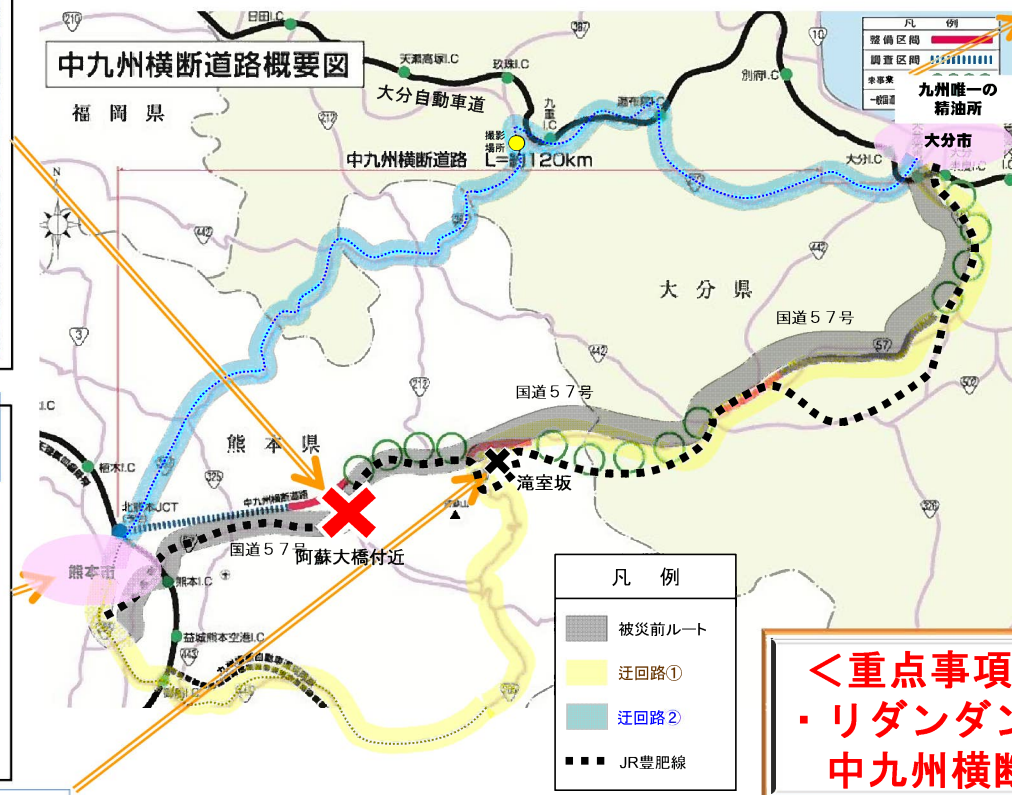


# 国道57号・JR豊肥本線の被災と影響

## 被災状況



## 被災状況と迂回ルート



## 大分臨海部コンビナートの強靱化

～今後予想される南海トラフ巨大地震～  
 ・浸水想定区域内人口 約56,000人  
 ・被害想定額 1.9兆円



熊本のガソリン  
 → 約8割が大分から陸送



- 迂回路の状況  
 (大型車の通行可能経路)
- 被災前 : 約2時間40分
  - 迂回路① : 約4時間
  - 迂回路② : 約3時間40分

**<重点事項>**  
 ・リダンダンシーを確保するため、  
 中九州横断道路の早期完成

## H24九州北部豪雨(滝室坂)の例

被災状況

約170m

復旧状況

平成24年7月  
 斜面崩壊発生  
 全面通行止  
 (40日間)

・大分～熊本間の物流、通勤や通院、  
 買い物など日常生活に大きく影響  
 ・翌平成25年度には、『滝室坂道路』  
 事業化

中九州横断道路の重要性が  
 認識され早期事業化が図られた





# 広域防災拠点として大分スポーツ公園が機能を発揮

大分スポーツ公園から  
被災地へ支援物資を搬送！



4/16 1:25  
熊本県において  
震度7を観測  
甚大な被害が発生



4/17 8:30  
大分スポーツ公園  
支援物資受入開始

## ● 県外から県内への支援物資搬入状況（大分港大在地区）



◆海上自衛隊  
「しもきた」

4/17到着



## ● 支援物資の集積状況（大分スポーツ公園）



広域防災拠点として  
重要性を再認識

## ● 国土交通省各地方整備局から大分港、別府港へ向け支援物資が続々と到着→被災地へ輸送

◆国土交通省  
中部地整  
「清龍丸」

4/20  
大分港到着



◆国土交通省  
近畿地整  
「はやたま」

4/20  
別府港到着



◆国土交通省  
中国地整  
四国地整

4/18  
別府港到着



## 地震によるホテル・旅館の被災状況



支柱のずれ・ゆがみ（由布市湯布院町）



厨房天井の落下（同左）



壁の崩落、駆体ゆがみ（同左）



瓦の落下（別府市明礬）



浴槽のひび割れ（同左）

# 平成28年ゴールデンウィーク観光動向調査結果

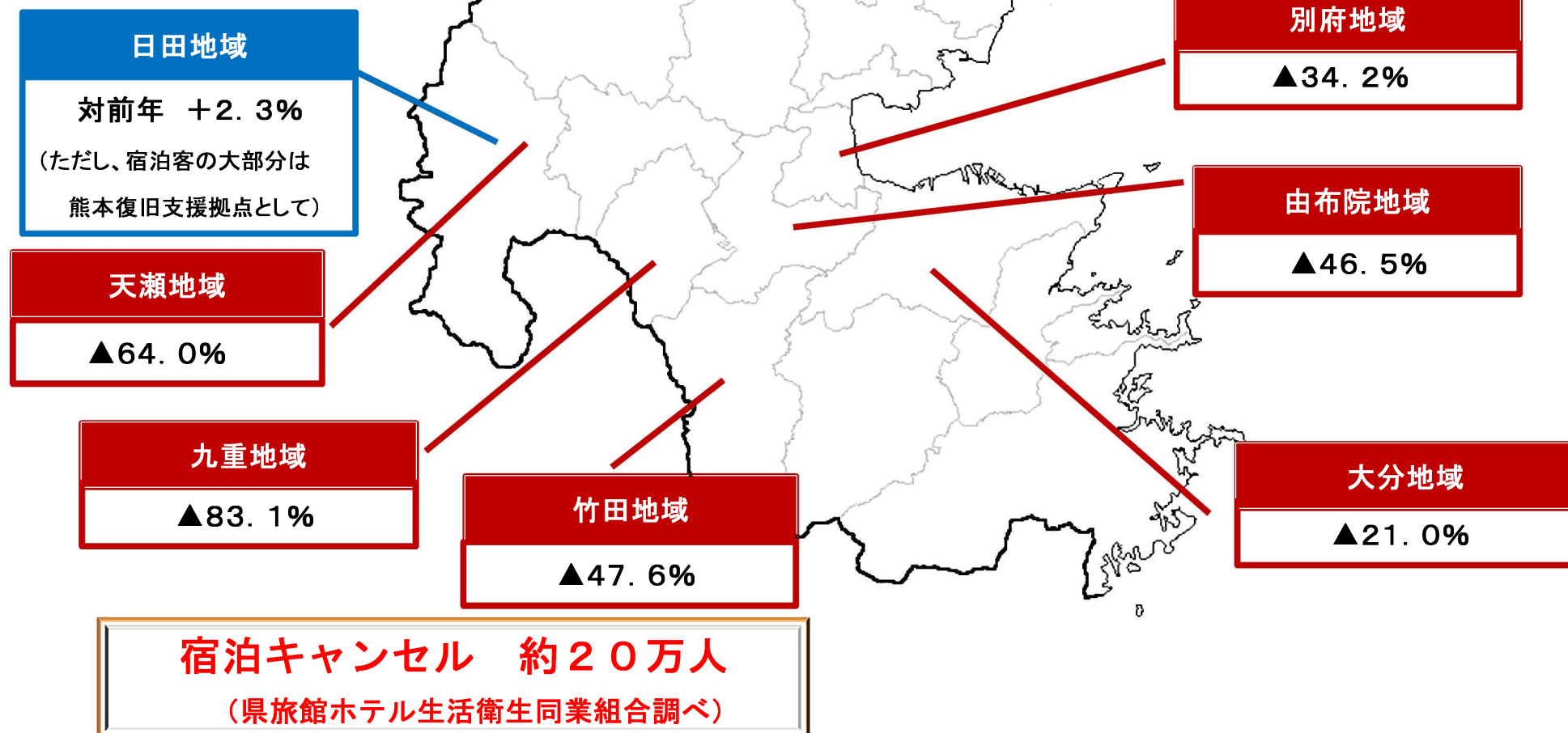
## ●観光施設(屋外16施設、屋内13施設)

調査内容	平成28年	平成27年	前年比
入場者数	272,031	517,108	▲47.4%

## ●宿泊施設(48施設)

調査内容	平成28年	平成27年	前年比
宿泊者数	48,744	75,322	▲35.3%

## ●地域別の宿泊客数(県内7地域)





# 大分県観光の復旧・復興について

## 【地震による被害】

- ◆平成28年熊本地震の発生・頻発する余震
- ◆JR豊肥本線の寸断、大分自動車道一部区間での災害復旧作業による通行規制
- ◆旅館・ホテルの瓦・窓ガラス・壁・備品等が損壊  
(例)A旅館 屋根瓦、土壁修理2,000万円
- ◆宿泊予約キャンセルの急増  
(例)Bホテル 7割がキャンセル
- ◆観光地、観光施設の入込客激減 \*特に外国人観光客  
GW対前年比 宿泊者数 35.3%減  
観光施設入場者数 47.4%減 (県GW観光動向調査)

## 【本県における取組】

### ◆修繕費・運転資金の確保と観光客の回復

フェーズⅠ【復旧・情報発信】今すぐすべきこと

- ・迅速・着実な復旧
- ・緊急経営支援
- ・交通状況、営業情報の発信 など

フェーズⅡ【イメージの回復】夏休みに向けて

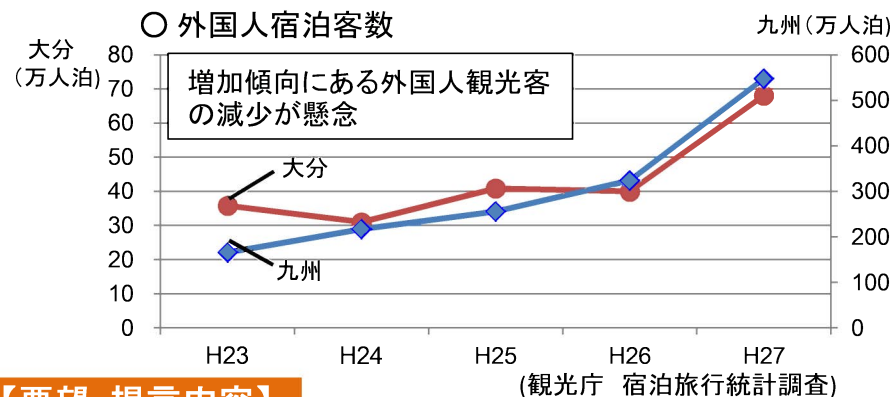
- ・積極的な国内外誘客キャンペーン
- ・大分・九州周遊旅行券(クーポン)発行 など

フェーズⅢ【観光客数の回復】秋の行楽シーズンに向けて

- ・国内外への情報発信
- ・旅行会社と連携した誘客対策 など

## 【課題・問題点】

- ◆大分自動車道、JR豊肥本線、観光・幹線・生活道路など交通インフラの復旧
- ◆宿泊施設・観光施設等の設備の復旧
- ◆運転資金の確保、雇用の維持
- ◆風評被害による宿泊客、観光客の減少対策
- ◆インバウンド回復へ向けた国立公園の活用



## 【要望・提言内容】

1. 交通インフラの早期復旧
2. 観光関連施設の復旧支援
3. 資金確保・雇用維持対策
4. 国内外への情報発信(風評被害対策)
5. 誘客対策に対する支援
6. MICE(全国規模の会議)の働きかけ
7. 阿蘇くじゅう国立公園のナショナルパークジャパン構想への選定

# 農林水産業の復旧・復興について

## 【地震による影響】

### ◆農林水産業施設に多くの被害が発生

〔主な被災状況〕(5/20時点)

- ・農地 435件  
(水田の亀裂、畦畔の損傷等)
  - ・農業用施設 185件  
(水路の損壊等)
  - ・畜舎・園芸ハウス等 71件
  - ・治山施設等 14件(落石による損壊等)
  - ・漁港施設 2件(液状化等による空洞化、棧橋の一部破損)
- 農林水産業被害額 約13億円



### ◆老朽化している農業水利施設や治山施設の損傷 および機能低下

#### ◇農業水利施設

- ・水路の約6割が耐用年数を超過
- ・120kmにも及ぶ素掘水路トンネルが存在

#### ◇治山施設

- ・約3割が設置後30年を経過
- ・洗掘等により防災機能が低下



老朽化した治山施設

### ◆別府・湯布院などで観光客のキャンセルが相次ぎ、 「おおいた豊後牛」や「かぼすヒラメ」、「関あじ」など、 本県を代表する製品の消費が下落



おおいた豊後牛



かぼすヒラメ



関あじ

## 【本県における取組】

- ①農業水利施設や治山施設の長寿命化  
に向け計画的な更新整備を実施  
→施設機能を強化し、災害リスクを軽減
- ②山地災害危険地区における  
治山施設を順次整備  
→落石を治山施設で捕捉し  
重大事故を未然に防止
- ③大手量販店やネット通販企業、観光業等と連携し、県産品の  
消費回復に向けた取組を展開



災害時要配慮者  
関連施設の上部  
での落石捕捉状況



## 【課題・問題点】

- ①今後の地震や大雨等による被害を未然に防止するため、  
農業水利施設や治山施設の早期整備が必要  
また、山地災害危険地区での落石や崩落のおそれ
- ②農林水産業の元気を取り戻すためには、消費の早期  
回復が必要

## 【要望・提言内容】

1. 防災力の強化に向けた農業水利施設や  
治山施設の整備に要する予算の確保
2. 被災地復興販促キャンペーンへの支援



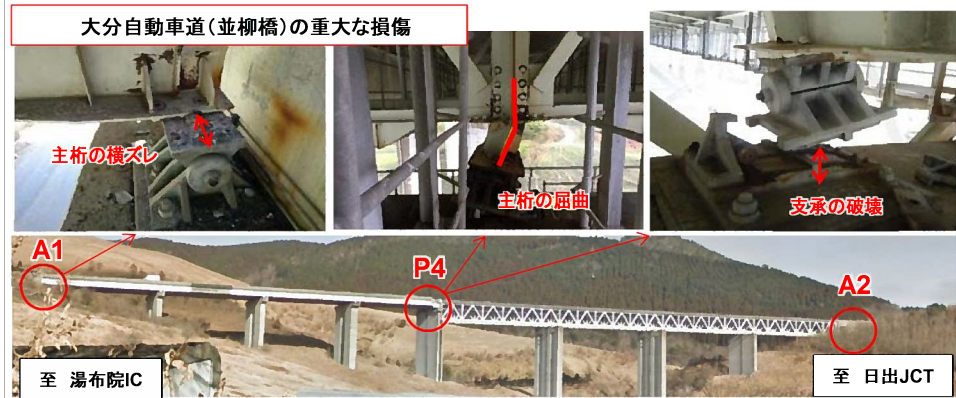
# 社会インフラの復旧・復興について

## 【地震による被害】



・平成28年熊本地震により九州を循環する高速交通ネットワークが分断  
 ・九州自動車道では、16日間の通行止が、大分自動車道では24日間の通行止が発生

**今後発生が予想される南海トラフ巨大地震に備え、  
 安心な暮らしを守る強靱な県土づくりが不可欠**



## 【必要性】

### 九州の産業・経済を支える大分自動車道の早期全面復旧

○ 大分自動車道  
 大分と西九州を結ぶ大動脈である大分自動車道が途絶(5/9一般開放済)。通行止め時は迂回を強いられ、物流や産業・観光に多大な影響。引き続き早期全面復旧を切望。

### 熊本・大分を結ぶ交通ネットワークの強靱化

○ 中九州横断道路・JR豊肥本線  
 中九州横断道路については、国道57号が分断され、支援物資の輸送や熊本において消費されるガソリンの約8割は大分から陸送しており、物流や産業にも影響。平成24年九州北部豪雨(滝室坂)等も経験し、リダンダンシーの重要性を再認識。  
 JR豊肥本線についても、平成24年九州北部豪雨に続く度重なる寸断が発生。早期全面復旧が求められる。

### コンビナートや市街地を守る高潮・地震・津波対策の迅速な推進

県経済の要である大分コンビナートは、九州唯一の製油所や製鉄所等が集積、国内外のサプライチェーンを形成し、わが国の産業・経済を支えている。  
 今後50年以内の発生確率が90%程度とされる南海トラフの地震による最大の被害額は約1.9兆円、津波浸水人口は約56,000人と推計  
 ※高潮・地震・津波対策の重要性を再認識



### 道路防災対策の更なる推進

全35箇所(20路線)が全面通行止。うち、緊急輸送道路は20箇所(9路線)。幹線道路である国道212号では約5ヶ月間不通となり、観光や物流、地域住民の生活に多大な影響。

## 【要望・提言内容】

- 九州の産業・経済を支える大分自動車道の早期全面復旧  
 大分自動車道 『湯布院IC～日出JCT間』の早期全面復旧
- 熊本と大分を結ぶ交通ネットワークの強靱化  
 中九州横断道路 早期全線開通・JR豊肥本線の早期全面復旧
- 大分コンビナートや市街地を守る大分港海岸の直轄による早期事業化
- 道路防災対策の更なる推進